

砂防事業 事後評価結果

担当課： 徳島県砂防防災課

担当課長名： 酒井 彰彦

事業の概要

事業名	通常砂防事業	事業区分	通常砂防事業	事業主体	徳島県
事業箇所	三好市山城町大川持	箇所名	大川持谷左支		
事業概要	砂防堰堤1基(H=10.5m L=38.2m V=2093m ³)				
事業の目的・必要性	<p>本溪流は、平均河床勾配が1/2.6と急勾配の溪流である。流域内の崩壊跡・浸食跡が確認され不安定土砂が厚く堆積しており、出水時に土石流が発生すると下流の人家、重要交通防である国道・JR、要配慮者利用施設の幼稚園、避難所に指定されている小学校に甚大な被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため砂防堰堤工を施工することで土砂災害を未然に防止し、安全を図るものである。</p>				
総事業費	231 百万円				
事業概要図・写真					

事業評価結果

評価項目	評価内容
①費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<ul style="list-style-type: none"> 計画全体事業費210百万円 → 精算全体事業費231百万円 計画工期H21年度～H24年度 → 実施工期H21年度～H27年度 着手時B/C 1.5 → 完成時B/C 1.5
②事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 砂防堰堤の完成に伴い土砂災害による被害の軽減された。 人家8戸、重要交通網である一般国道32号・JRが保全され、災害時の交通網が確保された。 避難所に指定されている小学校が保全され、災害時の避難場所が確保された。 ソフト対策である土砂災害警戒区域の指定と併せて、地域の総合的な防災力の向上が図られた。
③事業実施による環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> 一定以上の堆砂を除石する管理型砂防堰堤を採用することにより、堤高が抑えられ景観に配慮できている。
④社会経済情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> H26.8月に発生した広島豪雨災害により土砂災害に対する防災意識が一層高まっている中、当事業の実施においては土砂災害に対して地域の安全や重要交通網を確保しながら、土地利用や保全対象に影響を与えることなく、防災面の向上に寄与している。
⑤課題と今後の事業への反映	<ul style="list-style-type: none"> 当該箇所は施工時に発生する土砂の工事間流用の調整に時間を要した。今後は早い段階から工事間流用先の調整を行い、スムーズな工事の施工を図る。

費用対便益	区分	基準年	B/C	総費用(百万円)		総便益(百万円)	
	着手時	平成21年	1.5	216	工事費	315	人家8戸、幼稚園、小学校、道路180m、JR160m
完成時	平成28年	1.5	317	工事費	486	人家8戸、幼稚園、小学校、道路180m、JR160m	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※保全対象については、着手時は概略調査、完成時は詳細調査結果に基づいているため、現地状況により数値が異なる場合がある。